大銀杏

根　城

南部師行公

2020年度　第５号

八戸市立根城中学校　令和2年9月11日発行

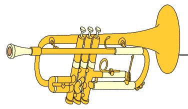
跳ね返せ 逆境を“Just do it”で 一つの輪に

【８月３０日（日)】
小雨が霧雨に変わり、一旦雨が上がり、そして、霧雨から小雨へ、といった天候が早朝から繰り返される中、昼までは何とかもつであろうという天気予報を信じ、「午前中で全競技をやり終えて、午後は応援合戦、多少の雨はやむなし。」と決断しました。しかし、時間が経つにつれて、雨の勢いは強くなり「雨は止む無し（止むことはない)」の状況になりました。２年前の豪雨の中での応援合戦を経験している３年生の中には、あの日の再来とばかり張り切っている生徒もいましたが、安全と健康のため、開会式後の各軍のエール交換をもって、その日は打ち切りました。

【９月２日（水)】
好天でありましたが、２日間の振替休業中も雨はしとしとと降り続いたため、校庭は芳しくない状況でした。そこで、フィールド内の競技を先に行い、校庭が乾いてくるあたりから徒競走等のトラック競技を行いました。午後は各軍が最も力を入れてきた応援合戦。当日の終了時刻予定よりも１時間延びましたが、種目をカットすることなく全競技を行うことができました。成績は、優勝－緑軍、準優勝－紅軍、第３位－青軍、応援賞－白軍という結果でした。

“Just do it（とにかくやってみよう）この夏 この瞬間”のテーマもとで行われた今年度初の全校行事は、笑顔、歓声、歓喜、真剣味、思いやり、感謝、悔しさ等がいっぱい詰まった思い出深いものになりました。

１日目は、雨にもかかわらず多くのご来賓や保護者の方々にご来校いただきました。順延日となった水曜日。この日も予想以上の来校者数でした。日曜日の時点では、「体育祭が延びれば、仕事のために見に来られないんだよなあ」と溜息をついていた方が、水曜日も満面の笑顔で応援していました。しかも、一人二人ではなかったので、その情熱に頭が下がりました。また、今回はこれまで以上に「おやじの会」の皆様にお世話になりました。熱中症防止のための氷準備、生徒への飲料の手渡し、駐車場整理、２日間にわたるテントや机の撤収等、会員の皆様のサポートにより、生徒たちにとって心に刻まれる体育祭となりました。ありがとうございました。



世界に一つだけのファンファーレ

本校の財産の一つに“堅き友情”があります。これまでは壮行式、夏季大会等での応援、体育祭などで、声高らかに歌い継がれてきましたが、今年度は残念ながら全員で歌う機会がないままです。中学校に独自の応援歌があるのは珍しく、一日も早く肩を組んで歌う機会を得たいものです。

さて、この度もう一つの財産が届きました。先日の体育祭の開閉会式で吹奏楽部が演奏したファンファーレです。なぜ財産と言えるのか説明します。

☆なぜ財産？その１－作った人が著名人

楽譜出版社「ウインズスコア」の社長の郷間幹男氏の作曲。この出版社は、歌謡曲やジャズの名曲から最新の J-POP まで幅広い楽曲を吹奏楽用にアレンジしており、その楽譜は全国の吹奏楽団体によって演奏されています。郷間氏自身も作曲や編曲を手がけ、各種コンクールの審査員を務めています。主な作品として「2018 年度全日本吹奏楽コンクール課題曲」があります。

☆なぜ財産？その２－本校吹奏楽部顧問の強運

ウインズスコアによる「コロナに負けない吹奏楽部を応援する企画」の一つに、郷間氏による“完全書き下ろし”「オリジナルファンファーレ」のプレゼントがあり、それに応募したのが、吹奏楽部顧問の中川暁先生でした。中学校も高校も当選枠は全国で１校のみです。本人は応募にあたり「こんな狭い枠、どうせ当たらないだろうなあ…。でも、もしも、万が一当たったら、コンクールも全部中止になった今年の部員にとって、ものすごくハッピーなプレゼントになるよな…。しかも、何と言ってもタダだし…（本人弁)」と考えていたそうです。

応募した記憶も薄れていた７月１日に届いたのが、右上の当選通知です。彼は生徒のために一生の幸運のほとんどを使い切ったのかもしれません。

☆なぜ財産？その３－感動と驚愕のファンファーレタイトル

正式名称は、「Head Quarter ～ Fanfare for Nejo Junior High School ～」です。後半部分は「根城中学校のためのファンファーレ」です。これはとてもわかりやすい表現です。感動と驚愕は前半に込められた意味です。英和辞書には Head Quarter とは「本拠地・本部・司令部・本社」などと載っています。このようなタイトルにしたのはなぜだろうと、更にインターネットで調べたところ「組織の根っことなるような重要な部分・根の城・根城（ねじろ）というサイトが輝いていました。郷間氏は本校のための世界に一つしかないファンファーレに校名を盛り込んでくださいました。

このようにすばらしい財産をいただいたからには、いろいろな場面で紹介しながら、名実共に Head Quarter にふさわしい学校づくりを進めましょう。